

各関係機関長 殿  
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成22年度農作物病害虫発生予察情報について

平成22年度農作物病害虫発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成22年度農作物病害虫発生予報第2号

平成22年5月17日  
徳島県

・果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期の発生圃場率は12.7%,発病度は0.1)。
- (2) 5月14日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並~多いと予想されており,発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生圃では落花期に薬剤防除を行なう。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では,春葉での発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 5月14日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並~多いと予想されており,発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝,剪定枝は圃外へ持ち出して処分し,病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行ない,その後1ヶ月,または降水量200~250mm毎に防除を励行する。

かいよう病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月前半の巡回調査では,発生圃場率は20.0%で平年(47.5%)よりやや低いが,発病度は0.2で平年(0.3)並である。
- (2) 5月14日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並~多いと予想されており,発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行ない,常発圃や罹病生品種圃では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い圃では防風対策を講じる。

## ヤノネカイガラムシ

### 1) 予報内容

発生時期 平年より遅い(前年より遅い)

### 2) 予報の根拠

(1) 5月17日時点において、県予察圃場での第1世代幼虫の初発生は確認していない(平年：5月14日、前年：5月10日)。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は、IGR剤の場合、発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合、35～40日後の時期である。

## ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率は50.0%でほぼ平年(42.3%)並であるが、寄生葉率は0.9%で平年(8.9%)と比べて低い。

(2) 5月14日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

## ナシ

### 黒星病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期の発生圃場率は11.8%、発病葉率は0.2%、発病果率は0.1%)。

(2) 5月14日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し、初期防除に努める。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率は87.5%、寄生新梢率は9.4%であり、平年(39.3%、3.9%)と比べてやや多めの発生である。

(2) 5月14日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 果樹共通

### 果樹カメムシ類

#### 1) 予報内容

発生時期 平年より早い(前年より遅い)

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)今春の予察灯調査において,上板町では平年(4月25日)より早い4月20日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。4月中の誘殺虫数は少なかったが,5月に入り,やや増加傾向にある。
- (2)5月14日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は平年並~多いと予想されており,発生に中立的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					上					板					田				
	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年
5.1	12	5	5	9	37	23	6	4	51	49	70	21	2	26	85	0	32	0	32	84	35	5	27	47	
5.2	57	42	8	12	90	70	21	2	26	85	0	32	0	32	84	35	5	27	47	36	8	130	64		
5.3		130	1	21	52																				
5.4		51	8	7	82																				
5.5		9	56	77	118																				
5.6		60	28	9	168																				
6.1		28	8	27	98																				

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					上					板					田				
	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2010年	2009年	2008年	2007年	平年
5.1	2	0	11	4	12	1	3	5	7	21	6	46	3	32	50	0	86	0	18	44	11	5	7	17	
5.2	10	17	1	9	54	6	46	3	32	50	0	86	0	18	44	11	5	7	17	4	8	23	24		
5.3		33	0	16	25																				
5.4		12	1	15	41																				
5.5		3	5	57	72																				
5.6		5	3	12	76																				
6.1		5	2	14	25																				

3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので,園内を巡回し飛来に注意するとともに,飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2)夜行性の虫なので,薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3)移動性が大きいので,広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

その他

- 1)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し,周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2)水田に薬剤を使用したときは,7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度:甚>多>中>少>無

発生量:多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
 テレホンサービス : 0 8 8 3 ( 2 6 ) 1 1 9 9  
 U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。